

令和7年度 全国体力・運動能力、運動習慣等調査について

1 調査目的

全国的な子どもの体力の状況を把握・分析し、体力の向上にかかる施策の成果と課題を検証し、改善を図る。また、学校における体育・健康に関する指導などの改善に役立てる。

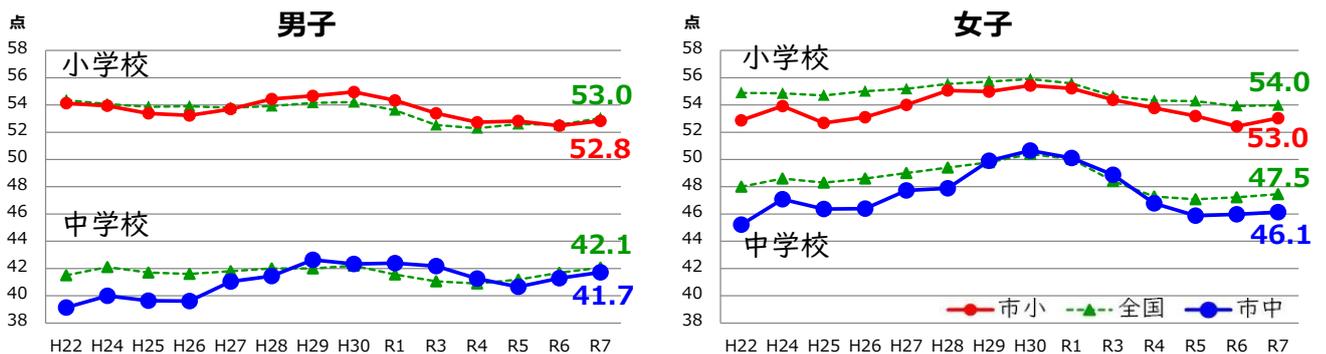
2 調査概要

- (1) 調査対象 小学校、特別支援学校（小学校部）第5学年児童、中学校、特別支援学校（中学校部）第2学年生徒
- (2) 調査内容
 - ①実技に関する調査（8種目）
握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、立ち幅とび、50m走、ソフト・ハンドボール投げ、20mシャトルラン
※中学校は持久走も可とされているが、福岡市は持久走なし
 - ②児童生徒に対する質問調査（運動習慣・生活習慣等）
 - ③学校に対する質問調査（子どもの体力向上に係る学校の取組等）
- (3) 調査期間 令和7年4月から7月まで

3 調査結果の概要について

(1) 体力合計点の推移

※体力合計点とは、8項目の実技テストの結果をそれぞれ10点満点に変換し、合計したもの。得点基準は男女で異なる。

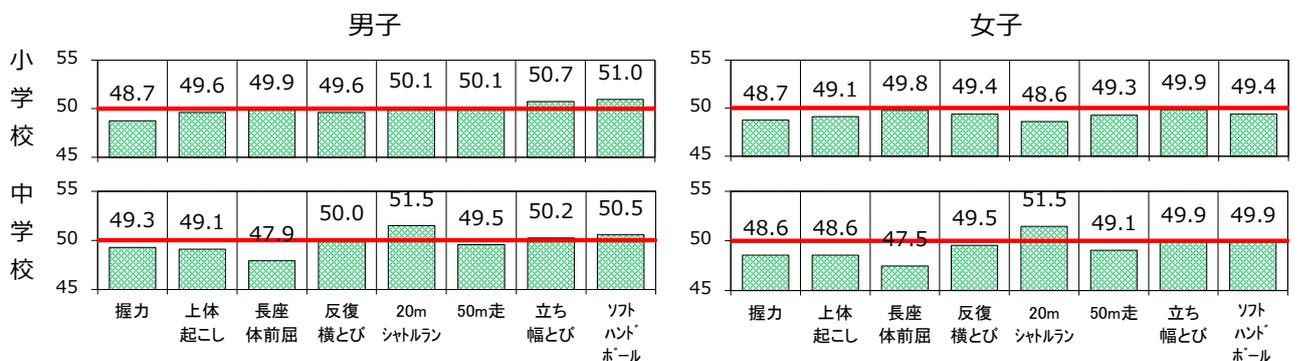


※平成22年度、24年度は抽出調査（小学校35校、中学19校）、平成23年度、令和2年度は調査中止

- ・全国平均と比べ、小中ともに男子が全国と同程度であり、女子はやや下回っている。
- ・昨年度より上昇しており、体力合計点は全体的には上昇傾向である。

(2) 種目別の全国との比較

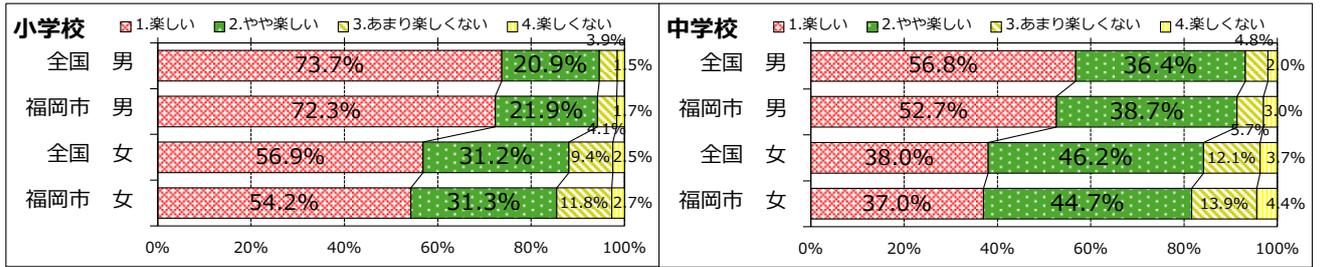
※全国平均を50とした数値で比較



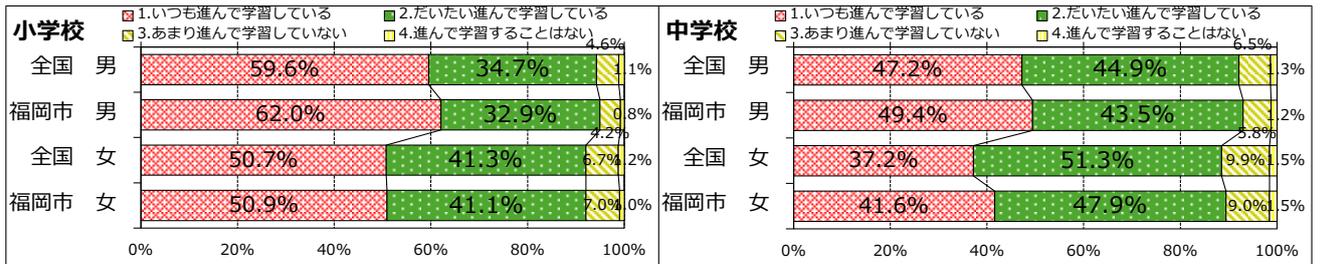
- ・小5男子は、ソフトボール投げで全国平均を1.0ポイント上回り、小5女子は、握力で1.3、20mシャトルランで1.4ポイント全国平均を下回っている。
- ・中2男子、女子ともに、20mシャトルランで全国平均を1.5ポイント上回り、長座体前屈で、男子が2.1、女子が2.5ポイント全国平均を下回っている。

(3) 体育、保健体育の授業について（質問紙調査より）

①「体育の授業は楽しい」の結果



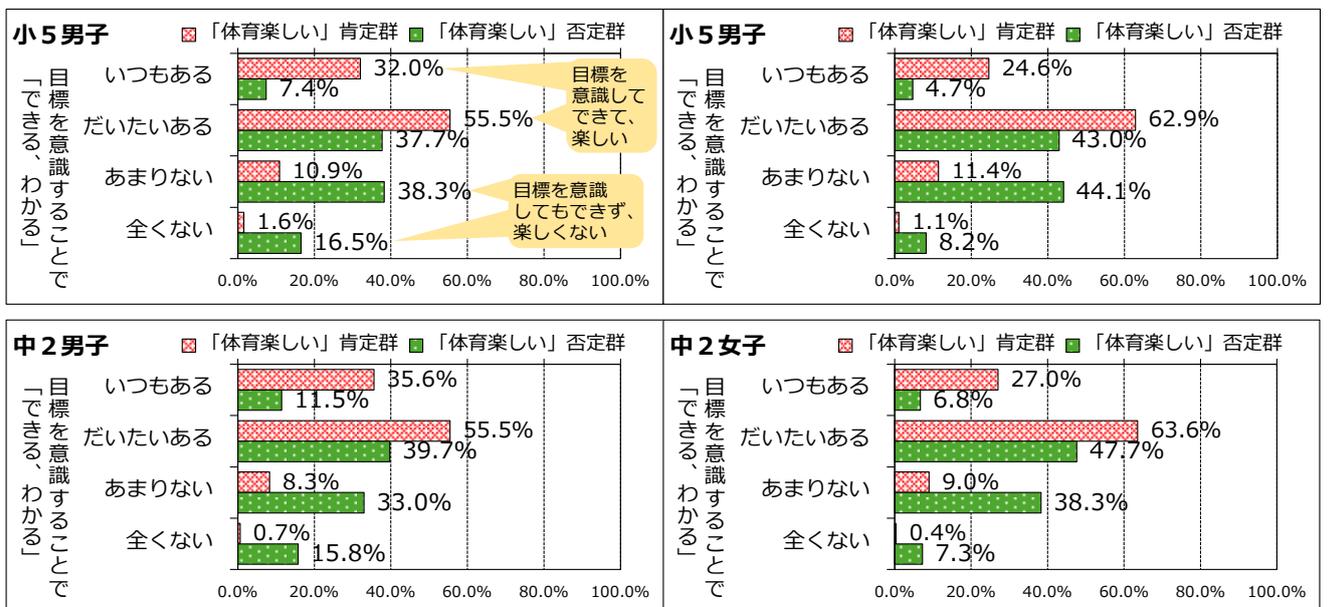
②「体育、保健体育の授業で、進んで学習に参加している」の結果



- ・「楽しい」に肯定的な割合は、全国平均を下回るが、「進んで学習に参加」に肯定的な割合は全国平均より高い。
- ・進んで学習する意欲は高いが、楽しさを見出していない児童生徒が一部いる可能性がある。

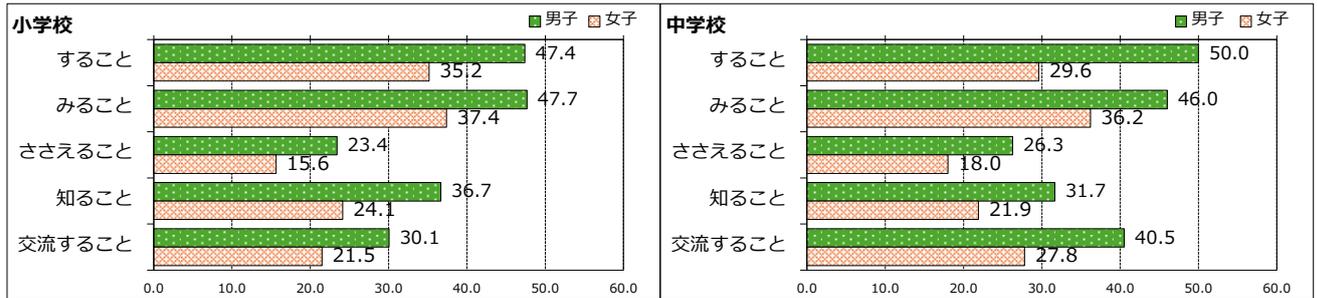
③「体育・保健体育が楽しい」×「保健体育授業で目標を意識することで『できる、わかる』」のクロス集計の結果

※「体育が楽しい」肯定群と否定群で、「体育で目標を意識してできたり、分かたりすることがあるか」を比較



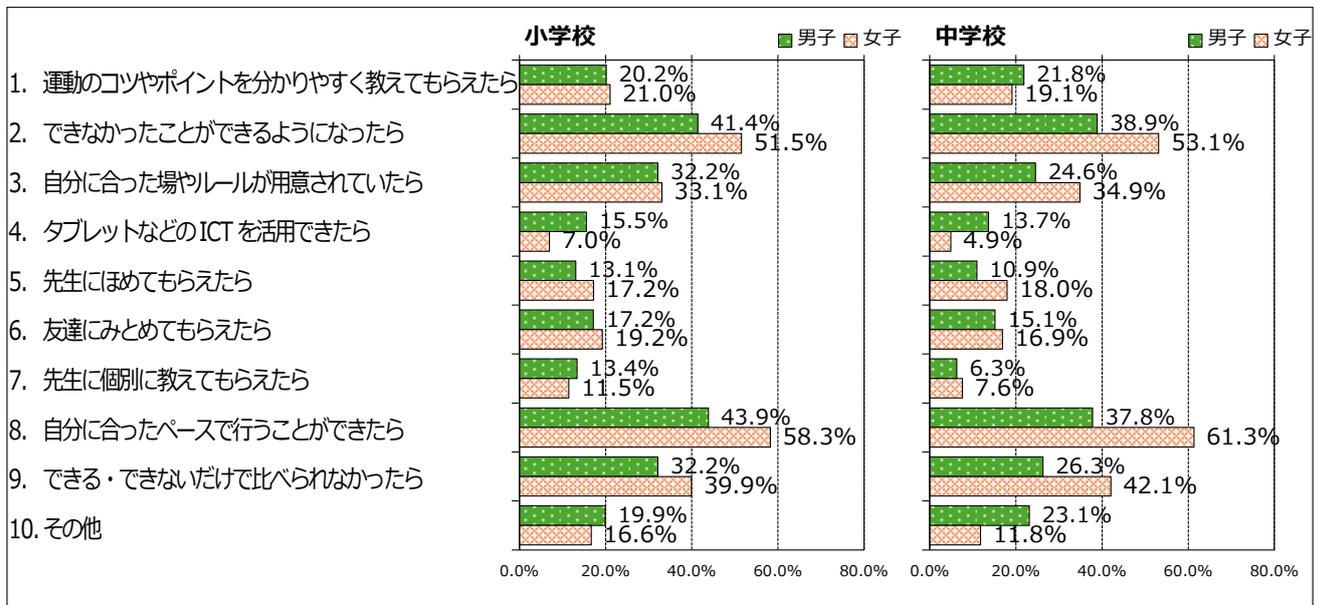
- ・体育・保健体育が「楽しくない」グループに「目標を意識することで『できる、わかる』」と感じていない児童生徒が多い。
- ・授業の中で、児童生徒が自分に合った目標を立てるなど、個別最適な学びができる環境を整える必要がある。

④体育・保健体育が「楽しくない」と回答した児童生徒の「運動やスポーツへの関わり方についての興味や関心があるか」についての結果



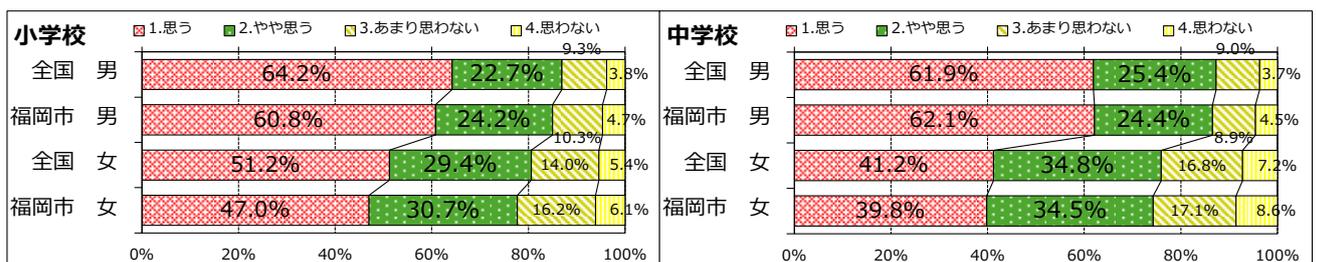
- ・体育・保健体育が「楽しくない」と回答した児童生徒にも、運動やスポーツを「すること、みること」は半数ほど興味・関心があり、小学校では「知ること」、中学校では、「交流すること」が続いて、高い。
- ・体育・保健体育の中で、「すること」だけでなく、「みること、知ること、交流すること」など、多様な運動への関わり方で、体育・保健体育が楽しくなる可能性がある。

⑤「今後どのようなことがあれば、今より保健体育の授業が楽しくなると思うか」についての結果



- ・小中男女ともに「自分に合ったペースで行う、できなかったことができるようになる、できるできないで比べられない、自分に合った場やルールがある」が多い。
- ・授業が楽しいと思えるには、自分で練習の仕方やペースを決めることができ、結果で判断するのではなく、過程を評価できる授業が有効だと考えられる。

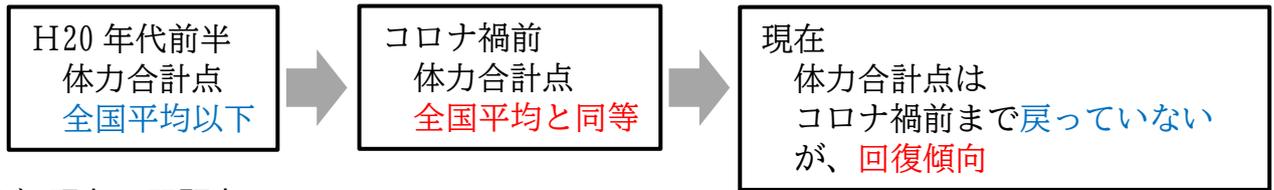
⑥「中学校で授業以外、または中学校卒業後、自主的に運動したい」についての結果



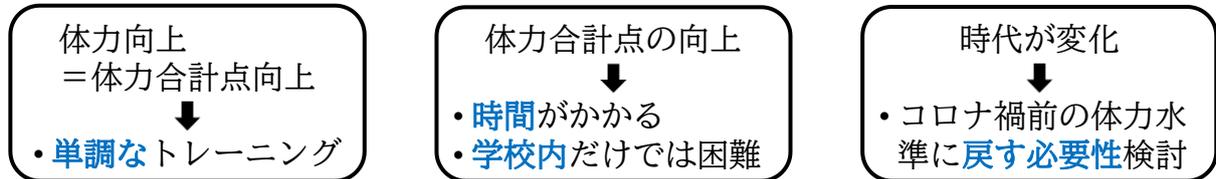
- ・小学校では、肯定的な回答の割合が全国より低く、中学校では同程度である。

4 今後の取組み

(1) これまでの体力向上の取組みについて



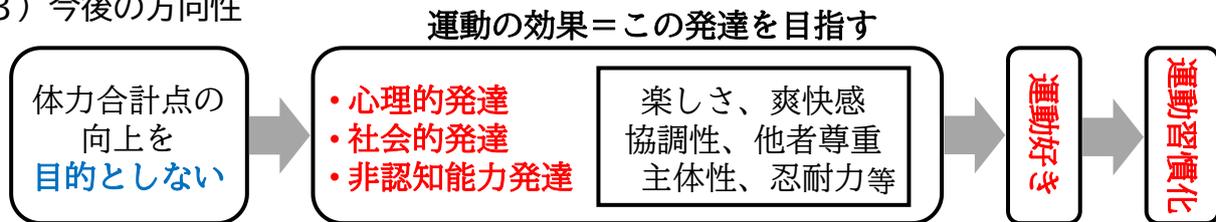
(2) 現在の問題点



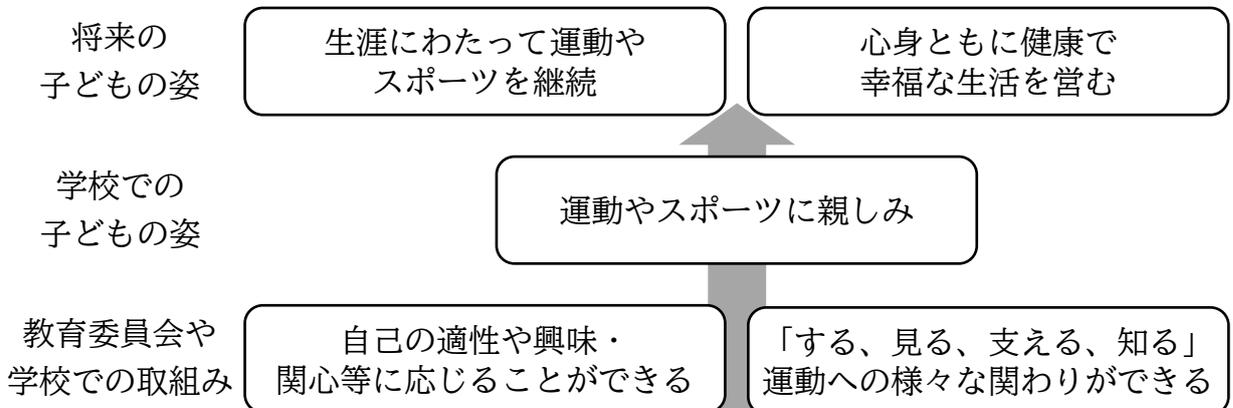
○体力合計点の向上を目標とすると

単調なトレーニングが続くことや成果がなかなか見られないことにより、
子どもの運動に対するモチベーションが上がらない。

(3) 今後の方向性



(4) 具体的な取組み



<教育委員会>

- 教員の指導力向上
 - ・ 大学教授やプロスポーツチームの指導者の最新の知見や指導方法を学ぶ研修の実施。
 - ・ 専門性の高い指導員を小学校の体育の授業に派遣し、教員の指導方法の普及
- 子どもの運動へのきっかけづくり
 - ・ プロスポーツチーム等による出前授業の実施。
- 時代の変化を見据えた今後の体育の在り方の検討
 - ・ 子どもが体力向上の方法を探求するなど、今後の体育の授業の内容等を研究する。

<学校の取組み>

- 授業、授業以外の取組みの実施
 - ・ 子どもが上達方法を探求する授業づくりや子どもが主体となって体育的行事を企画する等、授業や授業外の取組みを実践する。